

# 城北



平成 30 年 1 月 1 日 現在	
総世帯数	3,590
総人口	7,746
男	3,686
女	4,060

## 城北人物 風土記

### 魅せられて三十年 能面師 一條 八郎



「能面は無表情だ、と言う人がいますが、決してそんなことはありません。見る角度によって嬉しい顔になったり、悲しい顔になったりします」これが沢村地区在住だった能面師・一條八郎さんの口癖でした。

一條さんは、稲核で育った少年時代から何事にも一心に取り組み情熱の人でした。

昭和 16 年に入学した松本工業学校で、戦時中にも関わら

ずひとりの先生が謡った謡曲「鉢の木」を聴き、心が洗われるようなその優雅な響きに魅せられました。そしていつかは自分もと、その時心に決めました。

敗戦後、現東京電力に就職し早速発足したばかりの謡曲同好会に加入しました。練習が楽しく家でも欠かさず練習に打ち込む程でした。

一條さんは、水戸・東京・山梨などに転動しましたが、行く先々で謡曲同好会に加入し、謡に磨きを掛けました。そうした成果が実り昭和 48 年には宝生流の奥伝を取得し教授の資格を許されました。

#### 能面作りへ

昭和 58 年、長野県宝生流大に出席した一條さんは、ここで能面作りに踏み出す運命的な出会いをしました。

#### 会場口

ビーで新潟県の彫刻家・早川亜美さんが石膏で作った小面(少女)や若女(女性)などの能面を展示していたからです。



能面は、謡や囃子とともに能楽の重要な役目を務めています。

「記念にひとつあげましょう」早川さんの言葉に、一條さんは早速貰い受け、入門書や写真集などを参考に独学で面作りを始めましたが、3 年経っても納得する面ができませんでした。そうした折り、東京で開かれていた能面師・小倉宗衛さんの個展に出会い、その場で弟子入りし入門を許されました。

それから 5 年、毎週東京の小倉工房に通い、日本芸術協会会員に推挙される一方京都美術館で開かれる展示会に入选、準優勝するまでになりました。

そして独立後は、沢村の自宅脇に工房を建て、謡曲の指導や能楽などの関係行事の世

話以外は工房に籠り、「暇があつたら小面を作れ」と言う小倉師匠の言葉を励みに深夜まで能面作りに打ち込みました。

面を作り始めてから 20 年、県内を始め全国各地の美術展に出品するまでになりましたが、丁度 77 才の喜寿を迎えた平成 16 年、これまでの集大成として、松本市美術館で「喜寿能面展」を開きました。出品した能面は 80 種類 100 点で、期間中 2500 人余りの市民が会場を訪れ、見事な作りの能面に見入っていました。

#### 能楽普及にも尽力

一條さんは、その後も NHK 松本文化センターで能面作りの講師を務めたり、毎年夏に開かれる松本城の新能に協力したり伝統芸能の維持と発展に尽しました。

一條さんは、平成 28 年に 90 才で亡くなりましたが、年々衰退する能楽を心配して「一般の方々、特に若い人たちに興味と理解をして貰いたい」と話していました。



## 世代をこえてスポーツ交流



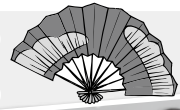
12 月 3 日 蟻ヶ崎北公民館で、幼児から大人・高齢者約 30 人が参加し「三世代交流 軽スポーツ大会」が開かれました。

平成 19 年に始まった大会は町会の主要目標「スポーツを通じた健康増進・地域交流施策」の一環で、体力的に運動会に参加できない人でも屋内でできる、ビンポウリング、輪ゴム銃、ターゲットゲームなどで子ども部門、大人部門の優勝を競いました。

最高齢は 90 歳の桜井さん。「ひ孫のような子とゲームができ、とても楽しい」と話していました。軽スポーツ大会は平成 27 年より城北公民館でも開催されています。



# 年末年始の街角で!!



しめ縄作り



蟻ヶ崎台町会

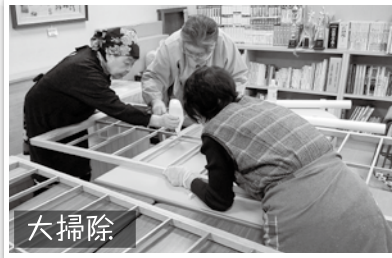
もちつき



蟻ヶ崎児童館



生け花講座



大掃除



門松 個人宅

初日の出



4町会



三味線演奏



書初め大会

## 松本市成人式

平成 30 年 松本市市制施行 110 周年記念

主催 松本市教育委員会



沢村町会

三九郎



蟻ヶ崎北町会



蟻ヶ崎東・深志ヶ丘町会



白金町会



繭玉作り



繭玉